

# 鹿児島県 有機農業情報

No. 13 H27.1

発行：農業開発総合センター  
〒899-3401

南さつま市金峰町大野2200

TEL 099-245-1118

FAX 099-245-1116

## ”オーガニックフェスタかごしま2014”の開催について

(食の安全推進課 099-286-2891)

オーガニックフェスタかごしま実行委員会主催による「オーガニックフェスタかごしま2014」が平成26年11月22日～23日の2日間、ドルフィンポート前広場で開催されました。今年のテーマは「土に根を張り、日を浴びて、今年はついに2日間」。マーケットエリア、キッチンエリア、ふれあいエリア、ステージ、遊び村の各エリアに合計276の出展があり、約5万人の来場者がありました。「環境にやさしい産地づくり」を支援している県農業環境協会の出展ブースでは、有機農業やIPM（総合的病害虫・雑草管理）等のパネル展示、パンフレット配布など、環境と調和した農業の推進に関する取組が紹介されていました。

有機農業に対する消費者の理解の増進を図るため、ホームページやイベントを活用した有機農業に関する情報の提供等を通じて、消費者をはじめ流通業者等の関係者に対して、①有機農業が持っている自然循環機能の増進、②環境への負荷の低減、③生物多様性の保全等、有機農業の有する様々な機能の啓発や、有機農業により生産される農産物の生産、流通、販売及び消費に関する情報の提供などに努めてまいります。

なお、県ではこれまで、環境保全型農業直接支援対策事業（国庫）を活用し、有機農業の取組を支援してきましたが、平成27年度も引き続き、当該事業を活用し、有機農業への取組の支援を行う予定です。



農業開発総合センターでは、ホウレンソウの有機栽培における適応性の高い品種の選定について検討してきました。前回、秋まき作型では収量性に優れ、徒長しにくい‘スパイダー’について紹介しましたが、今回は、冬まき作型において、べと病抵抗性があり、徒長しにくく、葉柄が折れにくい‘パワーアップ7’について紹介します。

## 1 品種の特徴

‘パワーアップ7’は、べと病(R-1~R-7)に抵抗性があります。これまで秋冬まき作型で栽培事例が比較的多い‘ソロモン’にもべと病に抵抗性がありますが、R-1とR-3のみです。つまり、‘パワーアップ7’は‘ソロモン’に比べていろいろなレース(系統)のべと病に抵抗性を持っています。

また、‘パワーアップ7’の葉色は濃緑で、葉幅は中程度、浅めの欠刻が1~2段入ります。



図1 パワーアップ7

## 2 収量

ホウレンソウは、葉長が25~40cmの範囲のものが販売可能です。平成25年の試験では、播種後48日目の葉長は両品種とも30cm程度で、これらの可販(規格内)収量は約140kg/aと同等でした。さらに、播種後59日目になると、‘ソロモン’は葉長が約50cmに伸長し、規格外となる株が約9割と非常に高くなり、可販収量が大きく低下しました。一方、‘パワーアップ7’は葉の伸長が緩やかで、播種後59日目でも葉長が40cm未満で、規格外となる株は約4割にとどまり、可販収量も約130kg/aでした。

以上のことから、‘パワーアップ7’は、播種後約50~60日目の可販収量が約130~140kg/aと安定し、冬まき用ホウレンソウとして適応性の高い有望な品種と考えられます。

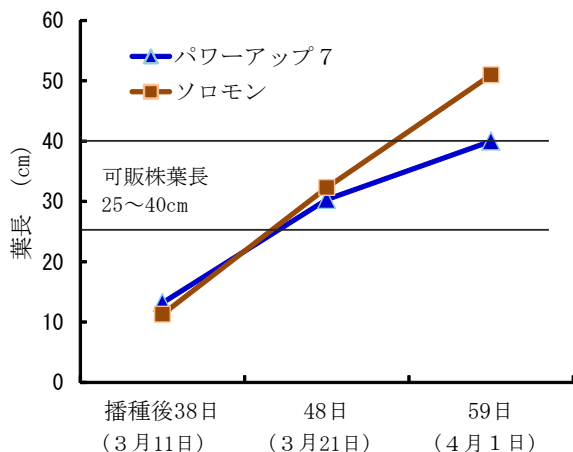


図2 葉長の推移

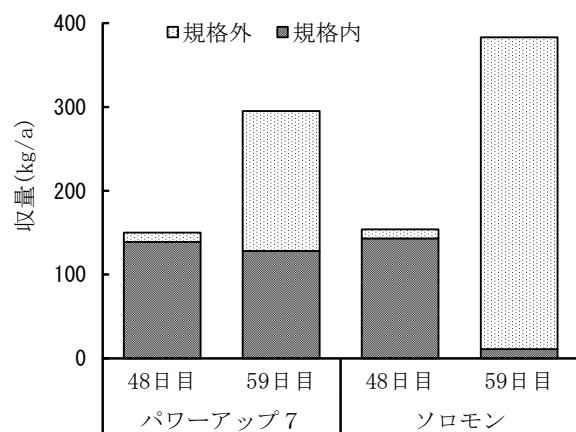


図3 規格別収量 (有機栽培4年目)  
規格内: 草丈25~40cm

播種日	平成25年2月1日
栽植密度	畦幅150cm 条間15cm 株間15cm 4条植(4,444株/a)
施肥量	牛ふん堆肥200kg/a, 鶏ふん堆肥50kg/a, 油かす20(窒素量:2.1) kg/a

有機農業で活用できる試験成績等の紹介

## チャノホソガに対するB T剤（エスマルクD F）の散布適期は葉縁巻葉期

（農業開発総合センター茶業部 0993-83-2811）

チャノホソガは、茶の新葉を三角に巻き（以下、三角巻葉）、その中を食害し、虫糞を排出します。虫糞が充満した三角巻葉が摘採葉に混入すると、茶の水色が赤変し、品質が低下します。そこで、有機JAS適合資材であるB T剤のうち本種に農薬登録があるエスマルクD Fの効果的な使用時期について検討したので紹介します。

エスマルクD Fを本種の各発育ステージに処理したところ、卵期～潜葉期の処理では効果が認められませんでした。しかし、葉縁巻葉期の処理で三角巻葉の形成は認められるものの、三角巻葉の中で幼虫が死亡し（蛹化抑制）、虫糞の排出を抑制しました（図1）。

ほ場の茶に萌芽から開葉期の茶樹の生育時期別にエスマルクD Fを散布した結果、本種が葉縁巻葉を形成する時期に当たる2.5～3葉期に散布した区では、虫糞の多い三角巻葉が少ない結果となりました（図2）。

B T剤は、幼虫がその成分を摂食することで効果を発揮する薬剤です。チャノホソガは、ふ化直後から葉内を潜行し、薬効成分を摂食する機会がないまま成長します。生育が進むと三角巻葉を形成する直前（葉縁巻葉期）に葉内から脱出し、三角巻葉を形成する際に葉を摂食します。その際、薬効成分を同時に摂食し、効果を発揮したと考えられます。これらの結果から、B T剤であるエスマルクD Fがチャノホソガに対して効果を発揮する散布適期は、葉縁巻葉期であることが明らかになりました。ただし、本剤は、摘採前日数が7日であることを留意しておく必要があります。

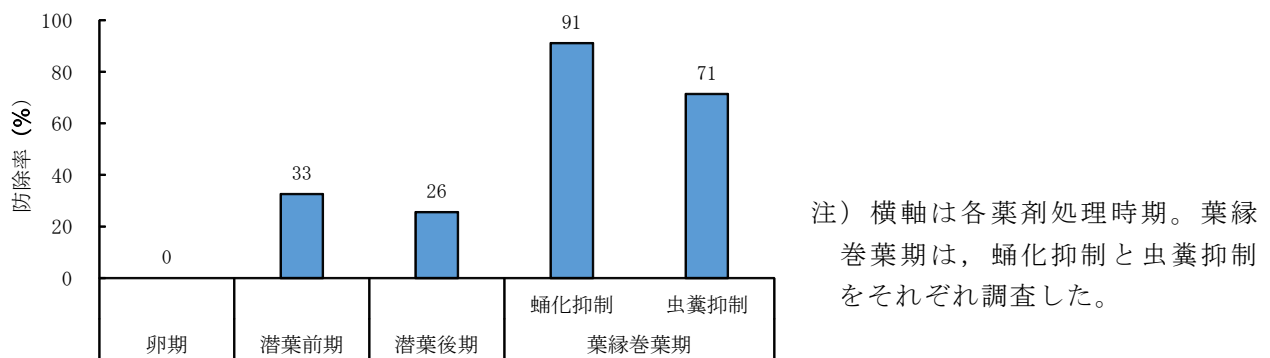


図1 チャノホソガの各発育ステージにおけるエスマルクD Fの効果（室内試験）

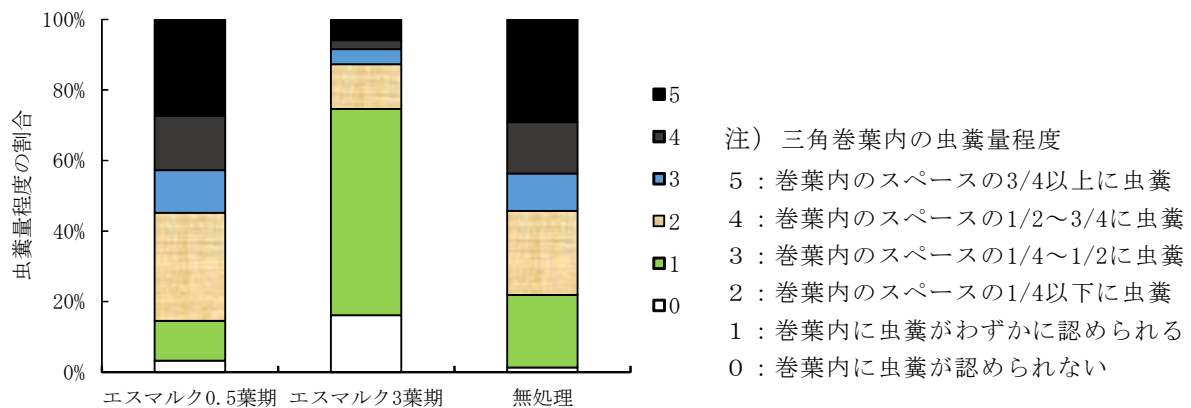


図2 茶樹の生育時期別散布における三角巻葉内の虫糞量の割合

## 現地活動の紹介

# タイトル「O t y 鹿児島 c l u b の活動について」

(始良・伊佐地域振興局 農政普及課 0995-63-8223)

霧島市は、茶の有機栽培がさかんなところです。

O t y 鹿児島 c l u b (会長：西利実 会員：15名)は、有機茶生産技術の習得を目的とする若手茶生産者の交流活動を通して、美味しい有機茶づくりを追求する活動の場として、平成25年2月に発足しました。O t y とは、O r g a n i c (有機)とT e a (茶), Y o u n g m a n (青年)の頭文字を取って命名されています。当クラブは、活動を始めて2年目の若い組織です。



O t y 鹿児島 c l u b 会員

### 1 荒茶求評会

一般的に、有機茶は慣行栽培の茶に比べ美味しくない、というイメージがあります。そこで、会員が一番茶を持ち寄り、荒茶求評会を開催し、お茶を見て、飲んで、嗅いでみて、良い点や改善すべき点について意見交換し、美味しい有機茶を作る技術の向上に反映させています。



荒茶求評会

### 2 現地検討会と土壌診断

有機栽培は、慣行栽培に比べ病虫害対策に苦慮します。そこで、おいしい茶づくりに欠かせない太い枝や大きな葉を作って、健全な葉層を形成するための整枝方法や水を活用した害虫対策について勉強する現地検討会を開催しています。さらに、土壌診断を実施し、バランスの良い健全な土づくりにも取り組んでいます。



現地検討会

### 3 仕上げ茶P Rと販売会

こうして出来上がった美味しい有機茶を多くの消費者に知ってもらうため、会員の持ち寄った荒茶を仕上げてP R販売会を実施しています。会員が包装や袋のデザイン、販売時のレイアウトやポップなどのアイデアを出し合いながら楽しく取り組んでいます。

平成25年度は、地元霧島市内の国分じょうもん市場や塩浸温泉龍馬公園での販売を企画し、FMきりしまを利用して広報したところ、すぐに完売するなど上々の成果が得られました。今年度は、鹿児島市で開催されたオーガニックフェスタに参加しました。当フェスタでは、消費者から「甘くて美味しい」と好評価をいただきました。



有機茶P R

有機茶は、国内はもとより海外輸出への期待が高まり脚光を浴びるようになってきています。しかし、病虫害や雑草との戦いで労力とコストなどがかかります。今後も、当クラブでは、仲間と共に勉強し、励まし合うことで有機茶の生産拡大に取り組んでまいります。